

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さんこんにちは。おかげさまでかわら版は今月で満五年、第六十号を迎えました。ご愛読いただいている皆様
に心より感謝申し上げます。

覚王山周辺の名刹を紹介している今年のかわら版。今月は本山の**桃巖寺(とうがんじ)**です。

(*) カッコ内は参照号

★織田信秀の菩提寺

織田家の居城、**末森城(五十八号)**。
織田信長の父、**信秀**が日泰寺の東、現在の**城山八幡宮**の場所に築いたお城です。

その信秀の菩提寺が**泉龍山桃巖寺**。本山にある**曹洞宗**のお寺です。信長の弟、**信行**が父を弔うために建立。もともと末森城のすぐ南にありましたが、一七一五年に現在地に移転。寺号は**信秀の戒名、桃巖**に因みます。

弁天像(眠り弁天)を祀っているため、別名、**名古屋弁天**、または**東山弁天**とも言います。眠り弁天はお正月し



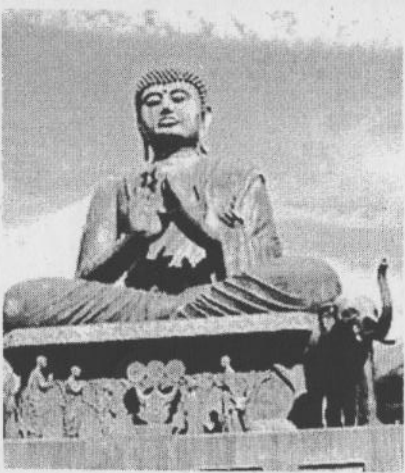
か拝観できません。
弁天とは**七福神**のひとつ、**弁財天**のこと。**商売繁盛、芸事**の神様として信仰されており、桃巖寺にもご商売をさ
仰されている方や芸能人が参拝するそうです。本堂には参拝した芸能人の写真
がたくさん飾ってあります。



★威風堂々、名古屋大仏

桃巖寺のもうひとつ名物は**名古屋大仏**。台座を含めて**高さ十五メートル**もある大きな仏像です。大仏の周囲を**十一頭の象**が囲んでいます。

昭和六十二年、大仏師の**長田晴山氏**が制作。**名古屋オリンピック**にあわせて開眼する予定だったそうです。残念なことにも名古屋オリンピックは幻に終わり、名古屋大仏の威風を世界に発信する機会も幻となりました。



桃巖寺の名古屋大仏

★曹洞宗の基本は座禪

弘法大師空海が開いた真言宗では、密教の教義(教相)と作法(事相)の両方を学ぶことによって悟りに至ると教えられています。

一方、桃巖寺の曹洞宗が重視するのは座禪。悟りを開くためには、読経や礼拝ではなく、ただひたすら座禪を行うべきであるという只管打坐(しかんたざ)の教えを基本にしています。

開祖は道元。比叡山で天台教学(五十九号)を学び、中国(唐)に留学。帰国後、菩提樹の下で座禪をくんで悟りを開いたお釈迦様に倣えと説き、曹洞宗を開きました。



★四諦八正道

座禪によってお釈迦様が開いた悟りは、ひと言で言えば苦を滅すること。生きることは基本的には苦であり、それを克服するために、苦諦(くたい)・集諦(じったい)・滅諦(めったい)・道諦(どうたい)の四諦(四つの真理)を説きました。

苦諦は苦を知ること、集諦は苦の原因を明らかにすること、滅諦は苦を取り除くこと、道諦は苦を取り除く方法のことです。

その方法としてお釈迦様が示されたのが八正道(はっしょうどう)。

正しく物事を見る正見(しょうけん)、正しい道理を考える正思(しょうし)、正しい言葉を語る正語(しょうご)、正しい行いをする正行(しょうぎょう)、正しい生活をする正命(しょうめい)、正しい努力をする正精進(しょうしんじん)、正しい道を念ずる正念(しょうねん)、精神を安定させる正定(しょうじょう)の八つです。

お釈迦様の教えを、入滅後に書き記したのが法華経。四諦八正道は法華経の真髓のひとつと言えます。

★次回は善篤寺

来月号では善篤寺についてお伝えします。桃巖寺と同じく曹洞宗のお寺です。